

# シラバス

2025年度版



鍼灸医療科第二部 3年

学校法人 赤門宏志学院

仙台赤門医療専門学校

# 2025年 仙台赤門医療専門学校 シラバス

<b>担当者名</b>	神成 有己 (実務経験のある教員)	<b>学科・年</b>	鍼灸医療科第二部 3年
<b>科目名</b>	東洋医学臨床論 I	<b>曜日・時間</b>	月曜日 17:40～

<b>【授業概要・目標】</b> 西洋医学的な視点と東洋医学的視点の両方から症状や病態を把握できるようになる。
--

＜前期＞	
回	授業テーマ
1	疼痛①
2	疼痛②と頭痛①
3	頭痛②と顔面痛
4	関節痛と頸肩腕痛①
5	頸肩腕痛②と上肢痛①
6	上肢痛②と肩関節痛①
7	肩関節痛②と疲労と倦怠感①
8	疲労と倦怠感②と発熱と冷え①
9	発熱と冷え②
10	発熱と冷え③とのぼせ
11	浮腫と掻痒感①
12	掻痒感②
13	問題演習①
14	問題演習②
◆	前期試験 (試験監督は教職員・専任教員)
15	評価点検

＜後期＞	
回	授業テーマ
1	臨床に向けた要点確認
2	臨床に向けた要点確認
3	臨床に向けた要点確認
4	臨床に向けた要点確認
5	臨床に向けた要点確認
6	臨床に向けた要点確認
7	臨床に向けた要点確認
8	臨床に向けた要点確認
9	臨床に向けた要点確認
10	臨床に向けた要点確認
11	臨床に向けた要点確認
12	国家試験対策
13	国家試験対策
14	国家試験対策
◆	後期試験 (試験監督は教職員・専任教員)
15	評価点検

<b>評価方法</b>	定期試験の結果をもってその学期の評価とする。
<b>授業の進め方</b>	前期はテキストを中心に後期は問題演習なども含めて進めていく。
<b>注意 (学生に望むこと)</b>	東洋医学と西洋医学両方の視点から病態を把握できるよう復習をしっかりとするようにお願いします。
<b>テキスト・参考書</b>	教科書を中心に進めていきます

# 2025年 仙台赤門医療専門学校 シラバス

<b>担当者名</b>	今野 弘務 (実務経験のある教員)	<b>学科・年</b>	鍼灸医療科第二部 3年
<b>科目名</b>	鍼灸臨床実技Ⅳ	<b>曜日・時間</b>	月曜日 19:15～

<b>【授業概要・目標】</b> 1, 鍼灸実技の基礎を再確認 2, 臨床の実際
---

＜前期＞	
回	授業テーマ
1	オリエンテーション
2	治療理論
3	治療理論
4	診察
5	診察
6	診察
7	診察
8	配穴法
9	臨床の実際(肩こり)
10	臨床の実際(頸部の疾患)
11	臨床の実際(頸部の疾患)
12	学校協会実技試験対策
13	学校協会実技試験対策
14	実技試験
15	評価点検

＜後期＞	
回	授業テーマ
1	学校協会実技試験対策
2	学校協会実技試験対策
3	臨床の実際(上肢の疾患)
4	臨床の実際(腰部の疾患)
5	臨床の実際(腰部の疾患)
6	臨床の実際(膝の疾患)
7	臨床の実際(膝の疾患)
8	臨床の実際(その他下肢の疾患)
9	臨床の実際(その他下肢の疾患)
10	臨床の実際(頭痛、めまい)
11	臨床の実際(妊活)
12	臨床の実際(つわり、逆子)
13	臨床の実際(小児)
14	実技試験
15	評価点検

<b>評価方法</b>	実技試験の結果、平常点を考慮し評価する。
<b>授業の進め方</b>	実技を中心に行うので、授業前に学生同士、練習相手となる組(ペア)を決めておいて欲しい。※、毎時間、別な相手であることが望ましい。
<b>注意 (学生に望むこと)</b>	鍼灸実技の基本的な操作、手順は、日頃から練習を行ってほしい。
<b>テキスト・参考書</b>	とくになし。

# 2025年 仙台赤門医療専門学校 シラバス

<b>担当者名</b>	萱場 公雄	<b>学科・年</b>	鍼灸医療科第二部 3年
<b>科目名</b>	関係法規	<b>曜日・時間</b>	火曜日 17:40～

**【授業概要・目標】**  
 保健医療福祉制度の中におけるあん摩マッサージ指圧師、はり師及びきゆう師の位置付けや職業倫理について理解を深める。生涯を通じて、健康や障害の状況に応じて社会資源を活用できるように必要な知識と基礎的な能力を養うことを目標とする。  
 医療法、医師法等の医事法の体系の中での「あん摩マッサージ指圧師、はり師、きゆう師等に関する法律」、社会保障法、社会福祉関係法について学ぶ。

＜前期＞	
回	授業テーマ
1	関係法規入門(1) 関係法規とは、関係法規と医事法(学)
2	(2)法の概念、法の領域、法の存在形式
3	(3)法秩序の構成原理、法の解釈
4	医療法(1)医療法の概要、医療法の目的、医療提供の理念、医療関係者の責務
5	(2)医療提供施設の種類と定義、類似名称の使用制限
6	(3)医療提供施設の要件、法定人員、構造設備の基準等
7	(4)医療提供施設の管理監督等、医業等の広告の制限
8	(5)医療計画、医療法人、地域医療連携推進法人、医療審議会、地域保健法
9	医師法(1) 医師法の概要、資格法、臨床研修
10	(2)業務法、医業と医業類似行為
11	(3)義務法、罰則、秘密保持義務
12	他の医療関係者に関する法律(1) 歯科医師法、保健師助産師看護師法、診療放射線技師法、臨床検査技師等法
13	(2)理学療法士及び作業療法士法、視能訓練士法、言語聴覚士法、臨床工学技士法
14	(3)義肢装具士法、救急救命士法、歯科衛生士法、歯科技工士法、柔道整復師法 医師と他の医療関係者の業務の関係、名称独占と業務独占
◆	前期試験(試験監督は教職員・専任教員)
15	評価点検

＜後期＞	
回	授業テーマ
1	あん摩マッサージ指圧師、はり師、きゆう師等に関する法律(1)法律の沿革、法制定の目的、指定試験(登録)機関の指定
2	(2)指定試験(登録)機関が試験(登録)事務を行うときの規定の適用
3	(3)免許、免許の取得と取消、名簿、登録事務、学校・養成施設、試験
4	(4)施術者の業務、守秘義務等
5	(5)施術所に関する規制、広告の制限、免許取消と業務停止
6	(6)罰則、両罰規定
7	(7)医業類似行為とその規制、医業類似行為に関する判例
8	その他の関係法規(1)-予防衛生法規、薬事関係法規-感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律、予防接種法、医薬品医療機器等法、薬剤師法
9	(2)-保健衛生法規-健康増進法、母子保健法、母体保護法、精神保健及び精神障害者福祉に関する法律
10	(3)-社会保障関係法規-健康保険法、高齢者の医療の確保に関する法律、介護保険法
11	(4)-社会福祉関係法規-社会福祉法、生活保護法、老人福祉法、児童福祉法
12	(5)障害者基本法、障害者の日常生活及び社会生活を総合的に支援するための法律
13	(6)身体障害者福祉法、知的障害者福祉法、発達障害者支援法
14	個人情報保護法
◆	後期試験(試験監督は教職員・専任教員)
15	評価点検

<b>評価方法</b>	前期、後期の筆記試験による評価。前期試験は、記述問題と選択問題、後期試験は、国家試験に準じた選択問題とする。
<b>授業の進め方</b>	講義方式。医療六法の条文を読み理解する。
<b>注意(学生に望むこと)</b>	授業中の私語は厳禁とする。基本的なマナーを守ること。
<b>テキスト・参考書</b>	必要に応じて、レジュメを配布する。 医療六法令和7年版(必携) 前田和彦監修 関係法規 医歯薬出版

# 2025年 仙台赤門医療専門学校 シラバス

<b>担当者名</b>	古川 雄一郎 (実務経験のある教員)	<b>学科・年</b>	鍼灸医療科第二部 3年
<b>科目名</b>	鍼灸理論 I	<b>曜日・時間</b>	火曜日 19:15～

<b>【授業概要・目標】</b>	
①1年次に学習した鍼灸の基礎知識・リスク管理について復習をし、より理解を深める	
②「鍼灸がなぜ効くのか？」を鍼灸の一般治効理論や関連学説を通して理解する	
そして、患者さんに説明できるようになることを目標とする	

＜前期＞	
回	授業テーマ
1	オリエンテーション
2	第9章 鍼灸治効の基礎
3	第9章 鍼灸治効の基礎
4	第9章 鍼灸治効の基礎
5	第9章 鍼灸治効の基礎
6	第10章 鍼灸療法の一般治効理論
7	第10章 鍼灸療法の一般治効理論
8	第10章 鍼灸療法の一般治効理論
9	第10章 鍼灸療法の一般治効理論
10	第10章 鍼灸療法の一般治効理論
11	第11章 関連学説
12	第11章 関連学説
13	第11章 関連学説
14	前期まとめ
◆	前期試験 (試験監督は教職員・専任教員)
15	評価点検

＜後期＞	
回	授業テーマ
1	第1章 概論
2	第2章 鍼の基礎知識
3	第3章 刺鍼の方法と術式
4	第4章 特殊鍼法
5	第5章 灸の基礎知識
6	第6章 灸術の種類
7	第7章 鍼灸の臨床応用
8	第8章 リスク管理
9	鍼灸理論 国試演習①
10	鍼灸理論 国試演習②
11	鍼灸理論 国試演習③
12	鍼灸理論 国試演習④
13	鍼灸理論 国試演習⑤
14	後期まとめ
◆	後期試験 (試験監督は教職員・専任教員)
15	評価点検

<b>評価方法</b>	前期:筆記試験による、後期:筆記試験による その他:出席状況、授業態度なども考慮する
<b>授業の進め方</b>	教科書に基づいてプリントを進めるが、学習状況により内容が前後したり、変更したりすることがある
<b>注意 (学生に望むこと)</b>	鍼灸治効機序は、生理学が主体となっているため、生理学の復習を重ねて、基礎を身につけて下さい
<b>テキスト・参考書</b>	『はりきゅう理論』『はりきゅう実技<基礎編>』(東洋療法学校協会編) 『生理学 第3版』(東洋療法学校協会編)

# 2025年 仙台赤門医療専門学校 シラバス

<b>担当者名</b>	三保 翔平 (実務経験のある教員)	<b>学科・年</b>	鍼灸医療科第二部 3年
<b>科目名</b>	東洋医学各論Ⅱ	<b>曜日・時間</b>	水曜日 17:40～

<b>【授業概要・目標】</b> 弁証論治、治療法について理解を深める。 弁証論治を組み立てその意義を理解し、治療を行える事を目指す。
---

＜前期＞	
回	授業テーマ
1	標本と主客、治則、弁証論治
2	八綱弁証・治法
3	気血津液弁証・治法
4	気血津液弁証・治法
5	臓腑弁証・治法
6	臓腑弁証・治法
7	臓腑弁証・治法
8	経絡弁証・治法
9	経絡弁証・治法
10	六淫弁証・治法
11	六淫弁証・治法
12	六経弁証・治法
13	六経弁証・治法
14	衛気営血弁証、三焦弁証・治法
◆	前期試験 (試験監督は教職員・専任教員)
15	評価点検

＜後期＞	
回	授業テーマ
1	症候に対する治法
2	症候に対する治法
3	鍼灸の補瀉
4	六十九難、七十五難
5	選穴の原則
6	特定穴の応用
7	古代鍼法
8	湯液(漢方薬)
9	弁証論治の進め方と証の決定
10	弁証論治の練習
11	弁証論治の練習
12	弁証論治の練習
13	弁証論治の練習
14	弁証論治の練習
◆	後期試験 (試験監督は教職員・専任教員)
15	評価点検

<b>評価方法</b>	定期試験の点数
<b>授業の進め方</b>	板書、パワーポイントの活用
<b>注意 (学生に望むこと)</b>	板書の記録
<b>テキスト・参考書</b>	『新版 東洋医学臨床論(はりきゅう編)』(南江堂2022年刊)

# 2025年 仙台赤門医療専門学校 シラバス

<b>担当者名</b>	三保 翔平 (実務経験のある教員)	<b>学科・年</b>	鍼灸医療科第二部 3年
<b>科目名</b>	鍼灸臨床実技Ⅲ	<b>曜日・時間</b>	水曜日 19:15～

**【授業概要・目標】**  
 弁証論治、治療法について理解を深め、実践する。  
 弁証論治を組み立てその意義を理解し、治療の実践を重ねる。

＜前期＞	
回	授業テーマ
1	オリエンテーション
2	八綱弁証・治法 実践応用
3	気血津液弁証・治法 実践応用
4	気血津液弁証・治法 実践応用
5	臓腑弁証・治法 実践応用
6	臓腑弁証・治法 実践応用
7	臓腑弁証・治法 実践応用
8	経絡弁証・治法 実践応用
9	経絡弁証・治法 実践応用
10	はりきゅう実技審査練習(1)
11	はりきゅう実技審査練習(2)
12	はりきゅう実技審査練習(3)
13	前期実技試験
14	前期実技試験
15	評価点検

＜後期＞	
回	授業テーマ
1	はりきゅう実技審査練習(4)
2	はりきゅう実技審査練習(5)
3	症候に対する治法 実践応用
4	症候に対する治法 実践応用
5	鍼灸の補瀉 実践応用
6	六十九難、七十五難 実践応用
7	選穴の原則 実践応用
8	特定穴の応用 実践応用
9	古代鍼法 実践応用
10	弁証論治の練習 治療実技
11	弁証論治の練習 治療実技
12	弁証論治の練習 治療実技
13	後期実技試験
14	後期実技試験
15	評価点検

<b>評価方法</b>	授業の実技の取り組む姿勢、定期試験。
<b>授業の進め方</b>	理論と実技を組み合わせる。
<b>注意 (学生に望むこと)</b>	授業時間外の練習。
<b>テキスト・参考書</b>	なし

# 2025年 仙台赤門医療専門学校 シラバス

<b>担当者名</b>	塚本 直太 (実務経験のある教員)	<b>学科・年</b>	鍼灸医療科第二部 3年
<b>科目名</b>	東洋医学臨床Ⅲ	<b>曜日・時間</b>	木曜日 17:40～

<b>【授業概要・目標】</b>	
前期:各論第1節「疼痛」の範囲より、腰下肢疾患の病態把握及び治療を理解する。	
後期:各論第2節「臓腑と関連する症候」・第4節「その他の疾患」・第7節「老年特有の症候」について理解する。該当範囲が修了したら国家試験の対策授業とする。	

＜前期＞	
回	授業テーマ
1	P127 第1節 腰下肢痛-①
2	P127 第1節 腰下肢痛-②
3	P136 第1節 腰痛-①
4	P136 第1節 腰痛-②
5	P146 第1節 下肢痛-①
6	P146 第1節 下肢痛-②
7	P154 第1節 膝痛-①
8	P154 第1節 膝痛-②
9	P164 第1節 胸痛-①
10	P164 第1節 胸痛-②
11	P170 第1節 腹痛-①
12	P170 第1節 腹痛-②
13	前期小テスト①
14	前期小テスト②
◆	前期試験 (試験監督は教職員・専任教員)
15	評価点検

＜後期＞	
回	授業テーマ
1	P405 第4節 顔面麻痺
2	P413 第4節 歩行異常
3	P422 第4節 口渇
4	P432 第4節 出血傾向
5	P529 第7節 老年特有の症候
6	国家試験対策問題Ⅰ
7	国家試験対策問題Ⅱ
8	国家試験対策問題Ⅲ
9	国家試験対策問題Ⅳ
10	国家試験対策問題Ⅴ
11	国家試験対策問題Ⅵ
12	国家試験対策問題Ⅶ
13	国家試験対策問題Ⅷ
14	後期復習 小テスト③
◆	後期試験 (試験監督は教職員・専任教員)
15	評価点検

<b>評価方法</b>	定期試験で評価する。定期試験の結果が及第点未満の者に対しては小テストの結果を加味する。
<b>授業の進め方</b>	教科書に沿った内容で講義を進める。
<b>注意 (学生に望むこと)</b>	自ら学ぶ姿勢を身につけてほしい。
<b>テキスト・参考書</b>	新版 東洋医学臨床論(はりきゅう編)

# 2025年 仙台赤門医療専門学校 シラバス

<b>担当者名</b>	塚本 直太 (実務経験のある教員)	<b>学科・年</b>	鍼灸医療科第二部 3年
<b>科目名</b>	鍼灸臨床実技Ⅱ	<b>曜日・時間</b>	木曜日 19:15～

**【授業概要・目標】**  
 奇経の診察(四診)点と主治症を判断と治療、穴に基づき主治穴を単独または一対での治療原則の習得

＜前期＞	
回	授業テーマ
1	奇経八脉の流注と病証①
2	奇経八脉の流注と病証①復習
3	奇経八脉の流注と病証②
4	奇経八脉の流注と病証②復習
5	奇経八脉の流注と病証③
6	奇経八脉の流注と病証③復習
7	奇経八脉の流注と病証④
8	奇経八脉の流注と病証④復習
9	鍼灸実技評価審査練習①
10	鍼灸実技評価審査練習②
11	鍼灸実技評価審査練習③
12	鍼灸実技評価審査練習④
13	前期実技試験
14	各種配穴による実習
15	評価点検

＜後期＞	
回	授業テーマ
1	肺経・大腸経の是動病と所生病
2	上記:経穴取穴・四診
3	胃経・脾経の是動病と所生病
4	上記:経穴取穴・四診
5	心経・小腸経の是動病と所生病
6	上記:経穴取穴・四診
7	膀胱経・腎経の是動病と所生病
8	上記:経穴取穴・四診
9	心包経・三焦経の是動病と所生病
10	上記:経穴取穴・四診
11	胆経・肝経の是動病と所生病
12	上記:経穴取穴・四診
13	後期実技試験
14	各種配穴による実習
15	評価点検

<b>評価方法</b>	定期実技試験で判定する
<b>授業の進め方</b>	学生の習熟度合に応じて進行をする。実技をおこなう。
<b>注意 (学生に望むこと)</b>	消毒作業の徹底をすること。
<b>テキスト・参考書</b>	教科書(東洋医学概論・東洋医学臨床論・経絡経穴概論)

## 2025年 仙台赤門医療専門学校 シラバス

<b>担当者名</b>	高橋 武彦 (実務経験のある教員)	<b>学科・年</b>	鍼灸医療科第二部 3年
<b>科目名</b>	リハビリテーション医学	<b>曜日・時間</b>	金曜日 17:40～

**【授業概要・目標】**  
 リハビリテーション医学の基礎的な概念や評価法等を学び、障害発生に関連する疾患への対応を知る。

＜前期＞	
回	授業テーマ
1	オリエンテーション
2	リハビリテーションと障害-1
3	リハビリテーションと障害-2
4	リハビリテーション医学と医療-1
5	リハビリテーション医学と医療-2
6	障害の評価-1
7	障害の評価-2
8	障害の評価-3
9	医学的リハビリテーション-1
10	医学的リハビリテーション-2
11	医学的リハビリテーション-3
12	医学的リハビリテーション-4
13	前期総合復習-1
14	前期総合復習-2
◆	前期試験 (試験監督は教職員・専任教員)
15	評価点検

＜後期＞	
回	授業テーマ
1	脳卒中のリハビリテーション-1
2	脳卒中のリハビリテーション-2
3	脊髄損傷のリハビリテーション
4	切断のリハビリテーション
5	小児のリハビリテーション
6	骨・関節疾患のリハビリテーション-1
7	骨・関節疾患のリハビリテーション-2
8	骨・関節疾患のリハビリテーション-3
9	末梢神経障害のリハビリテーション
10	パーキンソン病のリハビリテーション
11	呼吸器疾患のリハビリテーション
12	心疾患のリハビリテーション
13	後期総合復習-1
14	後期総合復習-2
◆	後期試験 (試験監督は教職員・専任教員)
15	評価点検

<b>評価方法</b>	出席、定期試験、授業態度、小テストの総合判定とする。
<b>授業の進め方</b>	教科書を中心に講義形式でポイントを確認しながら進め、テーマごとに国試問題の対策も行う。
<b>注意 (学生に望むこと)</b>	1,2年で学んだ基礎医学の内容を確認しながら進めるので、常に復習を心がけること。自身の臨床に必要と思われる内容は深く勉強してください。
<b>テキスト・参考書</b>	テキスト、その他

# 2025年 仙台赤門医療専門学校 シラバス

<b>担当者名</b>	高橋 武彦 (実務経験のある教員)	<b>学科・年</b>	鍼灸医療科第二部 3年
<b>科目名</b>	臨床医学各論Ⅱ	<b>曜日・時間</b>	金曜日 17:40～

**【授業概要・目標】**  
 鍼灸治療に必要な現代医学の基礎を学び、臨床への活用および注意すべき病態や症状の把握ができるようになる。

＜前期＞	
回	授業テーマ
1	整形外科的治療法
2	骨代謝疾患と骨腫瘍
3	筋・腱の疾患
4	形態異常について
5	脊椎疾患について
6	脳血管疾患
7	感染性疾患・脊髄疾患
8	基底核変性疾患
9	痴呆(認知症)疾患
10	筋疾患
11	運動ニューロン・末梢神経疾患
12	リウマチ・膠原病疾患
13	小児疾患
14	一般外科・麻酔科
◆	前期試験 (試験監督は教職員・専任教員)
15	評価点検

＜後期＞	
回	授業テーマ
1	婦人科疾患
2	皮膚科疾患
3	眼科・耳鼻科疾患
4	精神科疾患・心療内科
5	練習問題Ⅰ
6	練習問題Ⅱ
7	練習問題Ⅲ
8	練習問題Ⅳ
9	練習問題Ⅴ
10	練習問題Ⅵ
11	練習問題Ⅶ
12	練習問題Ⅷ
13	練習問題Ⅸ
14	練習問題Ⅹ
◆	後期試験 (試験監督は教職員・専任教員)
15	評価点検

<b>評価方法</b>	出席、筆記試験による評価とする。
<b>授業の進め方</b>	教科書、配布資料。
<b>注意 (学生に望むこと)</b>	病態把握の基礎となる解剖学、生理学、臨床医学総論の復習を行う。
<b>テキスト・参考書</b>	テキスト:臨床医学各論

# 2025年 仙台赤門医療専門学校 シラバス

<b>担当者名</b>	古川 雄一郎 (実務経験のある教員)	<b>学科・年</b>	鍼灸医療科第二部 3年
<b>科目名</b>	東洋医学臨床論Ⅱ	<b>曜日・時間</b>	土曜日 13:10～

**【授業概要・目標】**  
 臓腑と関連する症候(肝系統・心系統・脾系統・肺系統・腎経統)についての適応・不適応の鑑別。また西洋医学的・東洋医学的な考え方の病態・症状から、各疾患の鑑別方法について学習し、臨床に活かせる知識を習得する。

＜前期＞	
回	授業テーマ
1	第2節 臓腑と関連する症候 Ⅰ. 眼精疲労
2	第2節 臓腑と関連する症候 Ⅱ. 気分障害
3	臓腑と関連する症候 Ⅲ. めまい
4	第2節 臓腑と関連する症候 Ⅰ. 動悸・息切れ
5	第2節 臓腑と関連する症候 Ⅱ. 血圧異常
6	第2節 臓腑と関連する症候 Ⅲ. 睡眠障害
7	第2節 臓腑と関連する症候 Ⅰ. 食欲不振
8	第2節 臓腑と関連する症候 Ⅱ. 肥満
9	臓腑と関連する症候 Ⅲ. やせ(るい瘦)
10	第2節 臓腑と関連する症候 Ⅳ. 悪心・嘔吐
11	第2節 臓腑と関連する症候 Ⅴ. 便秘
12	臓腑と関連する症候 Ⅵ. 下痢
13	臓腑と関連する症候 Ⅶ. 歯痛
14	臓腑と関連する症候 Ⅰ. 咳嗽と喀痰
◆	前期試験 (試験監督は教職員・専任教員)
15	評価点検

＜後期＞	
回	授業テーマ
1	第2節 臓腑と関連する症候 Ⅲ. 鼻閉・鼻汁
2	第2節 臓腑と関連する症候 Ⅰ. 脱毛症
3	第2節 臓腑と関連する症候 Ⅱ. 耳鳴り・難聴
4	第2節 臓腑と関連する症候 Ⅲ. 排尿障害
5	第2節 臓腑と関連する症候 Ⅳ. ED(勃起障害)
6	第5節 女性特有の症状 Ⅰ. 概説 第5節 女性特有の症状 Ⅱ. 月経異常
7	第5節 女性特有の症状 Ⅲ. 性器出血
8	第5節 女性特有の症状 Ⅳ. 帯下
9	第5節 女性特有の症状 Ⅴ. 不妊症
10	第5節 女性特有の症状 Ⅵ. つわり
11	第5節 女性特有の症状 Ⅶ. 骨盤位(逆子)
12	第5節 女性特有の症状 Ⅷ. 乳汁分泌不全
13	第5節 小児特有の症候 Ⅰ. 概説 Ⅱ. 疳の虫
14	第5節 小児特有の症候 Ⅱ. 疳の虫 Ⅲ. 夜尿症
◆	後期試験 (試験監督は教職員・専任教員)
15	評価点検

<b>評価方法</b>	筆記試験、授業態度から総合的に評価する。
<b>授業の進め方</b>	各項目の適応・不適応、西洋医学的・東洋医学的な考え方の病態・症状・鑑別方法を理解し、鍼灸臨床に応用できるようにする。
<b>注意 (学生に望むこと)</b>	予習・復習をして授業に臨んでください。
<b>テキスト・参考書</b>	新版 東洋医学臨床論(はりきゅう編)。履修内容順に講義を進行する。

# 2025年 仙台赤門医療専門学校 シラバス

<b>担当者名</b>	伊東 太郎 (実務経験のある教員)	<b>学科・年</b>	鍼灸医療科第二部 3年
<b>科目名</b>	鍼灸臨床実技 I	<b>曜日・時間</b>	土曜日 14:50～

<b>【授業概要・目標】</b> ①実際の鍼灸治療現場で適切な接遇・問診・検査法ができるようになる。 ②検査法の意義、問診・検査法に基づく病態の説明ができるようになる。
--

＜前期＞	
回	授業テーマ
1	オリエンテーション
2	頸・上肢痛(1)
3	頸・上肢痛(2)
4	頸・上肢痛(3)
5	頸・上肢痛(4)
6	五十肩とその周辺疾患(1)
7	五十肩とその周辺疾患(2)
8	五十肩とその周辺疾患(3)
9	五十肩とその周辺疾患(4)
10	はりきゅう実技審査練習(1)
11	はりきゅう実技審査練習(2)
12	はりきゅう実技審査練習(3)
13	前期実技試験 (検査法)
14	前期実技試験 (鍼灸実技)
15	評価点検

＜後期＞	
回	授業テーマ
1	はりきゅう実技審査練習(4)
2	はりきゅう実技審査練習(5)
3	腰痛・坐骨神経痛(1)
4	腰痛・坐骨神経痛(2)
5	腰痛・坐骨神経痛(3)
6	腰痛・坐骨神経痛(4)
7	膝関節痛(1)
8	膝関節痛(2)
9	膝関節痛(3)
10	膝関節痛(4)
11	後期試験練習(1)
12	後期試験練習(2)
13	後期実技試験 (検査法)
14	後期実技試験 (鍼灸実技)
15	評価点検

<b>評価方法</b>	実技試験(70%)、課題(30%)で評価。
<b>授業の進め方</b>	講義20分⇒実技70分のペースで授業をしていく。
<b>注意 (学生に望むこと)</b>	(1)自主練習、復習をしておいてください。 (2)あいさつ・言葉遣い・身なり・道具の準備掃除をすること。
<b>テキスト・参考書</b>	テキスト:『問診診察ハンドブック』

# 2025年 仙台赤門医療専門学校 シラバス

<b>担当者名</b>	伊東 太郎 (実務経験のある教員)	<b>学科・年</b>	鍼灸医療科第二部 3年
<b>科目名</b>	東洋医学応用概論	<b>曜日・時間</b>	土曜日 16:30～

**【授業概要・目標】**  
 前期: 2学年までに修得した科目について、要点を確認し鍼灸臨床に応用できるようになる。  
 後期: あん摩マッサージ指圧師、はり師、きゆう師として必要な基本的知識の要点を確認し、総合的な判断ができるようになる。

＜前期＞	
回	授業テーマ
1	オリエンテーション
2	基礎分野の要点確認(1) 医療概論、衛生学・公衆衛生学 1/2
3	基礎分野の要点確認(2) 医療概論、衛生学・公衆衛生学 2/2
4	基礎分野の要点確認(3) 解剖学 1/3
5	基礎分野の要点確認(4) 解剖学 2/3
6	基礎分野の要点確認(5) 解剖学 3/3
7	基礎分野の要点確認(6) 生理学 1/3
8	基礎分野の要点確認(7) 生理学 2/3
9	基礎分野の要点確認(8) 生理学 3/3
10	基礎分野の要点確認(9) 病理学概論 1/2
11	基礎分野の要点確認(10) 病理学概論 2/2
12	専門基礎分野の要点確認(1) 臨床医学総論1/2
13	専門基礎分野の要点確認(2) 臨床医学総論2/2
14	前期復習
◆	前期試験 (試験監督は教職員・専任教員)
15	評価点検 前期復習(2)

＜後期＞	
回	授業テーマ
1	専門分野の要点確認(1) 東洋医学概論 1/4
2	専門分野の要点確認(2) 東洋医学概論 2/4
3	専門分野の要点確認(3) 東洋医学概論 3/4
4	専門分野の要点確認(4) 東洋医学概論 4/4
5	専門分野の要点確認(5) 経絡経穴概論 1/4
6	専門分野の要点確認(6) 経絡経穴概論 2/4
7	専門分野の要点確認(7) 経絡経穴概論 3/4
8	専門分野の要点確認(8) 経絡経穴概論 4/4
9	基礎分野の要点確認(1) 臨床医学各論 1/5
10	基礎分野の要点確認(2) 臨床医学各論 2/5
11	基礎分野の要点確認(3) 臨床医学各論 3/5
12	基礎分野の要点確認(4) 臨床医学各論 4/5
13	基礎分野の要点確認(5) 臨床医学各論 5/5
14	後期復習
◆	後期試験 (試験監督は教職員・専任教員)
15	評価点検 基礎・専門基礎分野の要点確認(15)

<b>評価方法</b>	定期試験の結果をもってその学期の評価とする。
<b>授業の進め方</b>	問題演習を中心として行う。
<b>注意 (学生に望むこと)</b>	復習(曖昧な記憶を教科書で補完すること)を効率的に行って欲しい。
<b>テキスト・参考書</b>	各科目の教科書

## 2025年 仙台赤門医療専門学校 シラバス

<b>担当者名</b>	専任教員 (実務経験のある教員)	<b>学科・年</b>	鍼灸医療科第二部 3年
<b>科目名</b>	臨床実習Ⅳ	<b>曜日・時間</b>	－曜日 一時限

**【授業概要・目標】**  
 ①患者と適切なコミュニケーションがとれる。 ②施術準備(補助)ができる。 ③基本的な事項について診療録に記載ができる。

＜前期＞	
回	授業テーマ
1	臨床実習前授業(Ⅰ)
2	臨床実習前授業(Ⅱ)
3	臨床実習(1)
4	臨床実習(2)
5	臨床実習(3)
6	臨床実習(4)
7	臨床実習(5)
8	臨床実習(6)
9	臨床実習(7)
10	臨床実習(8)
11	臨床実習(9)
12	臨床実習(10)
13	臨床実習(11)
14	臨床実習(12)
◆	－
15	臨床実習(13)

＜後期＞	
回	授業テーマ
1	臨床実習(14)
2	臨床実習(15)
3	臨床実習(16)
4	臨床実習(17)
5	臨床実習(18)
6	臨床実習(19)
7	臨床実習(20)
8	臨床実習(21)
9	臨床実習(22)
10	臨床実習(23)
11	－
12	－
13	－
14	－
◆	－
15	－

<b>評価方法</b>	知識の習得・身だしなみ・参加意欲などを総合的に評価する。
<b>授業の進め方</b>	臨床に必要な知識の習得、施術見学、環境整備、施術準備(補助)などを中心に行う。
<b>注意 (学生に望むこと)</b>	積極的に実習に参加してもらいたい。
<b>テキスト・参考書</b>	なし

科目名	学年	授業時間数	教員名	実務経験	業務内容
臨床医学各論Ⅱ	3	60	高橋 武彦	20年以上	病院、治療院での勤務経験を持ち、現在も学校付属の治療所で柔道整復の臨床をおこなっている。
リハビリテーション医学	3	60	高橋 武彦	20年以上	病院、治療院での勤務経験を持ち、現在も学校付属の治療所で柔道整復の臨床をおこなっている。
鍼灸理論Ⅰ	3	60	古川 雄一郎	10年以上	治療院で勤務したを持ち、現在も学校付属の治療所で鍼灸の臨床をおこなっている。
東洋医学各論Ⅱ	3	60	三保 翔平	10年以上	治療院を開業した経験を持ち、現在も学校付属の治療所で鍼灸・あん摩マッサージ指圧の臨床をおこなっている。
東洋医学臨床論Ⅰ	3	60	神成 有己	5年以上	治療院で勤務した経験を持ち、現在も治療院で柔道整復、鍼灸・あん摩マッサージ指圧の臨床をおこなっている。
東洋医学臨床論Ⅱ	3	60	古川 雄一郎	10年以上	治療院で勤務したを持ち、現在も学校付属の治療所で鍼灸の臨床をおこなっている。
東洋医学臨床論Ⅲ	3	60	塚本 直太	10年以上	治療院で勤務したを持ち、現在も学校付属の治療所で鍼灸の臨床をおこなっている。
東洋医学応用概論	3	60	伊東 太郎	10年以上	治療院を開業した経験を持ち、現在も学校付属の治療所で鍼灸の臨床をおこなっている。
鍼灸臨床実技Ⅰ	3	60	伊東 太郎	10年以上	治療院を開業した経験を持ち、現在も学校付属の治療所で鍼灸の臨床をおこなっている。
鍼灸臨床実技Ⅱ	3	60	塚本 直太	10年以上	治療院で勤務したを持ち、現在も学校付属の治療所で鍼灸の臨床をおこなっている。
鍼灸臨床実技Ⅲ	3	60	古川 雄一郎	10年以上	治療院で勤務したを持ち、現在も学校付属の治療所で鍼灸の臨床をおこなっている。
鍼灸臨床実技Ⅳ	3	60	今野 弘務	10年以上	治療院に勤務した経験を持ち、現在も治療院で鍼灸、柔道整復の臨床をおこなっている。
合計		720			